

指導と評価の年間計画・評価規準の作成について

2 地理歴史

<目次>

- | | | |
|-----|----------------------------------|-------|
| I | 「指導と評価の年間計画」及び「評価規準と単元計画」の作成の手引き | P 1～2 |
| II | 「指導と評価の年間計画」(日本史A) <例> | P 3 |
| III | 「評価規準と単元計画」(日本史A) <例> | P 4～5 |
| IV | 「学習指導案」(日本史A) <例> | P 6 |

I 「指導と評価の年間計画」及び「評価規準と単元計画」の作成の手引き

1 「指導と評価の年間計画」について

これは、次の2の「評価規準と単元計画」の全単元について、その概要を記述したものである。生徒の学習活動に対するより適正な評価、及び生徒の学習の改善に生かされる評価（指導と評価の一体化）の実現を目指して作成する。

これまで作られてきた指導計画は、多くの場合、学習内容（指導内容）を単に1年間の授業時間数に対して配分しただけに留まっていたが、この「指導と評価の年間計画」では、「学習項目」、「授業時間数」、各授業ごとの「主な学習活動（指導内容）と評価のポイント」、「評価方法」を記述する。

2 「評価規準と単元計画」について

学習指導要領に基づく「評価規準と単元計画」は、言い換えれば、評価規準を盛り込んだ「単元ごとの指導と評価の計画」である。次の内容構成で作成する。

◎「単元名」、「単元の目標」、「単元の評価規準」、「指導と評価の計画（○時間）」を示す。なお、「単元」とは、ほとんどの教科書の「節」に該当するものである。

- ・「単元の目標」

実際の使用教科書等に基づいた授業の進度に沿って単元ごとに示した目標。学習指導要領の項目ごとのねらいをもとに記載する。

- ・「単元の評価規準」

単元ごとに4観点別に示した評価規準。「内容のまとまりごとの評価規準」を単元の内容に即して具体化したもの。

◎「指導と評価の計画（○時間）」を示す。そこには、「次程」、「学習活動」、「評価の観点」、「評価規準等」を示す。

- ・「学習活動」、「評価の観点」

上記の1の「指導と評価の年間計画」の「各授業ごとの主な学習活動（指導内容）と評価のポイント」に反映されていなければならない。

- ・「評価の観点」

「関心・意欲・態度」、「思考・判断・表現」、「資料活用の技能」及び「知識・理解」に評価の観点を整理し、各教科等の特性に応じて、適切に設定しなければならない。

- ・「評価規準等」

評価規準は、「目標」を具体化したものであり、目標が生徒の学習状況として実現された状況を具体的に想定して示す。

- ・「評価方法」

評価方法については、各学校で各教科・科目の学習活動の特質、評価の観点や評価規準、評価の場面や生徒の発達の段階に応じて、観察、生徒との対話、ノート、ワークシート、学習カード、作品、レポート、ペーパーテスト、質問紙、面接などの様々な評価方法の中から、その場面における生徒の学習状況を的確に評価できる方法を選択していく。

※平成24年3月に、国立教育政策研究所教育課程研究センターから、「評価基準の作成，評価方法等の工夫改善のための参考資料（高等学校 地理歴史）」が示され、次のURLからダウンロードすることができる。

http://www.nier.go.jp/kaihatsu/hyouka/kou/02_kou_tirerekishi.pdf

「評価規準と単元計画」 <例>

(1) 単元名：○○○○

(2) 単元の目標

- ア ○○○○○○○○
- イ ○○○○○○○○
- ウ ○○○○○○○○
- エ ○○○○○○○○

(3) 単元の評価規準

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	資料活用の技能	知識・理解
・ ○○○○○○○○ ・ 末尾の表現 (例)「～に対する関心と課題意識を高めている。」 「～について意欲的に追究している。」等	・ ○○○○○○○○ ・ 末尾の表現 (例)「～について、多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現している。」等	・ ○○○○○○○○ ・ 末尾の表現 (例)「～から有用な情報を適切に選択している。」 「～を図表などにまとめたりしている。」等	・ ○○○○○○○○ ・ 末尾の表現 (例)「～を理解し、その知識を身に付けている。」等

(4) 指導と評価の計画 (○時間)

曜日	学習活動	関	思	技	知	評価規準等
第一次 (○時間扱い)	【ねらい】 ○○○○○○○○ ・ 末尾の表現 (例)「～をつかませる。」 「～を捉えさせる。」 「～について理解させる。」 「～を展望させる。」 「～を高めさせる。」 「～について説明させる。」 「～を見い出させる」 「～について考察させる。」 「～を表現させる。」等					・ 学習活動の主な項目を記載する。 ・ 該当する評価の観点に、●を記載する。 ・ 評価の規準及び具体的な評価の方法を記載する。
	【ねらい】 ○○○○○○○○					
第二次 (○時間扱い)						

II 「指導と評価の年間計画」(日本史A) <例>

2単位

到達目標 【学習指導要領】		・我が国の近現代の歴史の展開を諸資料に基づき地理的条件や世界の歴史と関連付け、現代の諸課題に着目して考察させることによって、歴史的思考力を培い、国際社会に主体的に生きる日本国民としての自覚と資質を養う。			
到達目標に向けての具体的取組 【指導上の留意点】		・様々な資料を活用し、地理的条件や世界の歴史と関連させながら、我が国の近現代の歴史や現代社会の成り立ちについて理解させる。 ・歴史的事象に対する興味・関心を高め、主体的な学習態度を育成する。 ・課題を追究する学習を重視して、歴史的思考力を培う。			
月	章	学習項目	時間	主な学習活動(指導内容)と評価のポイント	評価方法
4		私たちの時代と歴史	2	・現代の社会やその諸課題が歴史的に形成されたものであるという観点から、身近な生活文化を題材に、近現代の歴史事象と現在の結び付きを考える活動を通して、歴史への関心を高め、歴史を学ぶ意義に気付かせる。	ワークシート 発表
5	第1章	国際環境の変化と明治維新 1 19世紀の世界の動向と日本 2 開国と倒幕	15	・欧米諸国の産業革命と資本主義の発展やアジアへの進出について理解させ、日本における鎖国体制の動揺について、諸資料を活用して考察させる。 ・開国の政治的、経済的な影響について、輸出入や物価等のグラフを参考に考察させる。幕末の政治情勢や対外関係を時系列に整理させて、倒幕運動の展開について理解させる。 ・明治政府の諸改革と対外関係を、ワークシートにまとめて理解させる。急激な近代化に対する、人々の反応を、諸資料を用いて考察させる。 ・岩倉使節団の欧米見聞の記録から、その後の国内改革や対外関係の展開について考察させる。明治10年前後の国内情勢について、ワークシートにまとめさせる。	観察 ワークシート 小テスト レポート
6		3 明治政府の諸改革と社会の変化 4 明治初期の外交と反政府運動			
7	第2章	近代国家の成立と国際関係の推移 1 自由民権運動の展開 2 立憲体制の成立 3 日清戦争と国際関係 4 日露戦争前後の世界と日本	15	・国会開設や憲法制定をめぐる、どのような運動が展開されたかを、民権派と政府の動向について年表にまとめさせる。 松方財政の民権運動への影響について、秩父事件を題材に、考察させる。 ・明治憲法の成立過程と特徴を、表にまとめて理解させる。 初期議会と対外関係について、議会の争点を探ることで考察させる。 ・日清戦争の原因、経過、結果について、ワークシートにまとめさせる。 戦後の国内情勢の変化について、経済関係のグラフ等を参考に考察させる。 ・日露戦争前後の欧米列強の世界戦略について、表にまとめさせる。 戦後の国民感情の変化について、諸資料を基に考察させる。	観察 ワークシート 定期考査
9	第3章	両世界大戦をめぐる国際情勢と日本 1 帝国日本と第一次世界大戦 2 政党政治と大衆文化 3 軍国日本への道 4 太平洋戦争と日本	16	・欧米列強の世界戦略と第一次世界大戦の原因について理解させる。 日本の参戦の理由とその後の大陸侵略について、諸資料を基に考察させる。 ・米騒動を題材に、民衆運動の広がりについて、産業の発展と社会構造の変化に着目させながら考察させる。 ・恐慌と社会不安を背景に軍部が台頭していった経緯について、国内外の情勢を諸資料を活用することで、考察させる。 ・太平洋戦争の背景や原因について、国内外の政治や経済の情勢を、諸資料を用いて多面的・多角的に考察させる。	観察 ワークシート 小テスト レポート
10		近代の追究	5	・地域の産業と鉄道の発達との関連について、主題を追究し表現する活動を通して、歴史的な見方や考え方を育てる。	ワークシート 発表
11	第4章	現代世界と日本 1 現代世界の開幕と日本の戦後改革 2 日本の再建と復興への道 3 米ソ二極構造の世界と国内の再編 4 高度経済成長の時代 5 低成長から経済大国へ 6 冷戦の終焉と日本	16	・戦後日本の改革の内容を理解させるとともに、改革の背景について、当時の国民感情や社会情勢について考察させる。 戦後の枠組みが大きく変わろうとしている現在の情勢と比較しながら考察させる。 ・日本の国際社会への復帰とその後の対外関係について、今日のアジア情勢と関連付けて考えさせることで、現在の諸課題との関連に気付かせる。 ・米ソを中心とした冷戦の展開をまとめさせ、国内外への影響について理解させる。 第3世界の発展や、南北問題について、諸資料を用いて考察させる。 ・高度経済成長に伴う社会の変化について、諸資料を用いて、多面的・多角的に考察させる。 ・国内外の政治・経済情勢について、年表などにまとめさせる。 少子高齢化や消費者問題、公害問題等、様々な問題について考察させる。 ・冷戦の終結に伴う新たな課題について、世界情勢と日本の関係について諸資料を用いて考察させる。	観察 ワークシート 小テスト 定期考査
2 ・ 3		現代からの探究	6	・現代社会やその諸課題が歴史的に形成されたものであるという観点から、近現代の歴史に関わる身の回りの社会事象と関連させた適切な主題を設定させ、資料を活用して探究し、その解決に向けた考えを表現する活動を通して、歴史的な見方や考え方を身に付けさせる。	ワークシート 発表、レポート

合計時間数

75

Ⅲ 「評価規準と単元計画」 (日本史A) <例>

□単元名：「第一次世界大戦と社会の変化」

□基軸となる問い：

「第一次世界大戦前後で日本の社会や国際的な地位はどのように変化したか？」

□単元の目標：

資本主義経済の進展に伴う社会の変化について、様々な資料を収集し、国際社会における日本の立場に着目して、第一次世界大戦以後の対外政策の推移や大戦が国内の経済・社会に及ぼした影響について考察させる。

□単元の評価規準

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	資料活用の技能	知識・理解
<ul style="list-style-type: none"> 第一次世界大戦以後の対外政策の推移や大戦が国内の経済・社会に及ぼした影響などに対する関心と現代に通じる課題意識を高め、国際社会の中の日本の立場などを意欲的に追究している。 	<ul style="list-style-type: none"> 第一次世界大戦以後の対外政策の推移や大戦が国内の経済・社会に及ぼした影響から課題を見だし、国際社会の中の日本の立場と関連付けて多面的・多角的に考察するとともに、国際社会の変化を踏まえ公正に判断して、その過程や結果を適切に表現している。 	<ul style="list-style-type: none"> 第一次世界大戦以後の対外政策の推移や大戦が国内の経済・社会に及ぼした影響に関する文書や新聞などの文献、統計資料、絵画、映像などの諸資料を収集し、有用な情報を適切に選択している。 	<ul style="list-style-type: none"> 第一次世界大戦以後の対外政策の推移や大戦が国内の経済・社会に及ぼした影響に関する基本的な事柄を国際社会の中の日本の立場と関連付けて総合的に理解し、その知識を身に付けている。

□指導と評価の計画 (4時間)

第1次「第一次世界大戦と日本」(1時間)

第2次「大戦景気と社会変動」(2時間)

第3次「パリ講和会議とワシントン体制」(1時間)

□単元の指導と評価の計画

次 程	学習活動	評価の観点				評価規準等
		関	思	技	知	
第 1 次 (1 時 間 扱 い)	<p>第一次世界大戦と日本</p> <p>《問い》 なぜ日本は第一次世界大戦に参戦したのか？</p> <p>【ねらい】 日露戦争後の日本を含めた国際関係をワークシートにまとめさせることで、第一次世界大戦の原因と日本の参戦理由について理解させる。</p> <p>○日露戦争後の国際関係について、列強を中心にワークシートにまとめさせる。</p> <p>○第一次世界大戦の開戦の状況と日本の参戦理由について理解し、この戦いが日本にとっていかに「天佑」であったかを考えさせる。</p> <p>○「二十一箇条の要求」の資料を読ませ、当時の日本の大陸政策について理解させる。</p>				○	<ul style="list-style-type: none"> 第一次世界大戦以後の対外政策の推移や大戦が国内の経済・社会に及ぼした影響に関する基本的な事柄を国際社会の中の日本の立場と関連付けて総合的に理解し、その知識を身に付けている。 (ワークシート)

<p>第2次 (2時間扱い)</p>	<p>大戦景気と社会変動</p> <p>《問い》 米騒動と秩父事件の違いは？</p> <p>【ねらい】 同じ「民衆の騒擾」なのに、自由民権運動の激化事件は政府により鎮圧され、民権運動は一時衰退に追い込まれたが、米騒動は、寺内内閣総辞職と平民宰相である原敬内閣成立へ結び付いた。その違いについて考察させる。</p>				○	<ul style="list-style-type: none"> ・第一次世界大戦以後の対外政策の推移や大戦が国内の経済・社会に及ぼした影響に関する文書や新聞などの文献、統計資料、絵画、映像などの諸資料を収集し、有用な情報を適切に選択している。 (ワークシート) ・第一次世界大戦以後の対外政策の推移や大戦が国内の経済・社会に及ぼした影響などに対する関心と現代に通じる課題意識を高め、国際社会の中の日本の立場などを意欲的に追究している。
<p>第3次 (1時間扱い)</p>	<p>パリ講和会議とワシントン体制</p> <p>《問い》 第一次世界大戦後、日本の国際的な立場は、それ以前とどのように変化したか？</p> <p>【ねらい】 ヴェルサイユ体制とワシントン体制における日本の立場について考察させるとともに、東アジア諸国の独立運動の動向について理解させる。</p>				○	<ul style="list-style-type: none"> ・第一次世界大戦以後の対外政策の推移や大戦が国内の経済・社会に及ぼした影響に関する基本的な事柄を国際社会の中の日本の立場と関連付けて総合的に理解し、その知識を身に付けている。 (ワークシート) ・第一次世界大戦以後の対外政策の推移や大戦が国内の経済・社会に及ぼした影響から課題を見だし、国際社会の中の日本の立場と関連付けて多面的・多角的に考察するとともに、国際社会の変化を踏まえ公正に判断して、その過程や結果を適切に表現している。 (観察、ワークシート)

IV 「学習指導案」(日本史A) <例>

教科(科目)	地歴公民(日本史A)	単元名	第一次世界大戦と社会の変化
本時の位置付け	単元 第1次 第一次世界大戦と日本(1時間) 第2次 大戦景気と社会変動(2時間) … 本時(2時間目) 第3次 バリ講和会議とワシントン体制(1時間)		
本時の主題	米騒動と秩父事件の違いは?		
本時の目標	同じ「民衆の騒擾」なのに、自由民権運動の激化事件は政府により鎮圧され、民権運動は一時衰退に追い込まれたが、米騒動は、寺内内閣総辞職と平民宰相である原敬内閣成立へ結び付いた。その違いについて考察させる。		
評価規準	歴史資料を含む諸資料を収集し、有用な情報を適切に選択して、読み取ったり図や表にまとめたりしている。 【資料活用の技能】		
過程	指導の内容	学習内容	指導上の留意点・観点別評価
導入	本時の主題とワークシートの作業内容の説明	<p>《MQ》</p> <p>米騒動と秩父事件の違いは?</p> <p>同じ「民衆の騒擾」なのに、自由民権運動の激化事件は政府により鎮圧され、民権運動は一時衰退に追い込まれたが、米騒動は、寺内内閣総辞職と平民宰相である原敬内閣成立へ結び付いた。その違いは何か。</p> <p>・本時のMQを提示し、ワークシートの作業手順及び作業内容について説明する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・本時のMQを提示し、前時の大戦景気や米騒動の経緯について、概要を復習する。 ・あらかじめ4人程度のグループを作成しておく。
展開	グループ学習 グループ発表	<ul style="list-style-type: none"> ・グループで、MQに対する解答を、どのように導くかを検討させる。 ・1880年代の自由民権運動期と、1918年の米騒動に時期を比較して、その社会の違いについて、以下の問いを提示しながら、各グループで検討させる。 <p>《SQ》</p> <p>①米騒動がなぜ短期間のうちに全国的に広がったのか?</p> <p>②産業構造はどのように変わったか?</p> <p>③二つの事件の間に、どのような出来事があったか。</p> <p>※成年男子の工場就業者数やマスコミュニケーションの発達等に関するグラフや資料に着目させる。</p> <p>【発表】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループごとに「解答」をまとめさせて、発表させる。その際、史料や教科書、図表等の図やグラフ等を活用して説明させる。 発表は、ホワイトボードにまとめさせる。 <p>※教師は、発表の要旨を聞き取り、黒板にまとめる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・グループごとに、いくつか仮説をたてさせる。 ・教科書や図表などの表やグラフを活用して、検討させる。 ・必要ならば、年表や図などにまとめるように示唆する。 ・SQは、グループ活動の進行状況に応じて、適宜、与えるようにする。 ・発表の際に、より説得力があるように、表やグラフ、年表等を精選させる。 <p>○歴史資料を含む諸資料を収集し、有用な情報を適切に選択して、読み取ったり図や表にまとめたりしている。 【資料活用の技能】</p>
まとめ	本時のまとめ	<p>【作業3】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発表を聞いて、各自で200～300字程度で論述し、提出させる。その際、学んだ歴史用語をなるべく使用するように促す。 ・次時の予告 	<ul style="list-style-type: none"> ・学んだ知識・概念を適切に使用しているか。 ・本時への取組を自己評価させる。